

氏名	福 田 智 子
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第2980号
学位授与の日付	平成8年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	びまん性汎細気管支炎の病態に関する研究 —エリスロマイシン少量長期投与を中心に—
論文審査委員	教授 辻 孝夫 教授 太田 善介 教授 清水 信義

学位論文内容の要旨

DPB患者12例に対しエリスロマイシン(EM)の少量持続投与を行ない、全例で臨床症状、肺機能の改善を認めた。肺機能では%VC、%FEV_{1.0}、% \dot{V} 50、% \dot{V} 25、 \dot{V} 50/ \dot{V} 25のすべてがEM療法開始6ヵ月以内に著明に改善し、24ヵ月以上の持続投与でもその後の肺機能に大きな変動は認められなかった。一方、病期の進行した患者や、高齢者ではいくつかの項目で低下傾向が認められた。EM投与後の%FEV_{1.0}の改善が% \dot{V} 50と% \dot{V} 25の改善より良好であったことは、EMの作用部位が下気道で一様でなく、また末梢気道の病理学的変化がより強いことも関連すると考えられた。血清中sIL-2RはDPB患者において有意に高値であり、EM療法によって速やかに低下したが、EM療法後も健康人対照と比べ依然高値であった。喀痰細菌叢中の菌種、抗生剤に対する感受性は、EM長期投与によっても明らかな変化を示さなかった。

論文審査結果の要旨

本研究は、びまん性汎細気管支炎(DPB)のエリスロマイシン少量長期の効果をみる目的で、DPB患者12例に対しエリスロマイシン(EM)の少量持続投与を行ない、全例で臨床症状、肺機能の改善を認めたが、とくにEM療法開始6ヵ月以内に著明に改善し、24ヵ月以上の持続投与でもその後の肺機能に大きな変動は認められなかったという。また、血清中sIL-2RはDPB患者において有意に高値であり、EM療法によって速やかに低下したが、EM療法後も健康人対照と比べ依然高値であったという興味ある成績も得ている。

よって、本研究者は、博士(医学)の学位を得る資格があると判断した。